

外来植物

ナガエツルノゲイトウとの戦い

～史上最強の侵略的外来植物の駆除活動報告会～



ナガエツルノゲイトウは南米原産の外来植物であり、繁殖力が非常に強く、水路や農地に深刻な影響を及ぼします。

淀川 鶴殿の水路に繁茂するナガエツルノゲイトウ

本報告会はナガエツルノゲイトウという外来植物について詳しい解説を行い、適切な方法での駆除と拡散防止を目的としています。特に農地への侵入は深刻な被害をもたらします。農業に携わっておられる方は、ぜひお越しください。

■開催概要

- 日時 : 令和8年7月18日(土) 14時～16時
- 場所 : クロスパル高槻 5階 視聴覚室
- 講師 : 高田みちよ (ナガエツルノゲイトウ バスターズ)
- 費用 : 無料
- 申込 : 不要
- 定員 : 100名 (先着順)
- 主催 : ナガエツルノゲイトウ バスターズ
- 後援 : 高槻市、高槻市立自然博物館 (あくあびあ芥川)
- 協賛 : JA たかつき、五領地区実行組合長会、五領地区連合自治会、高槻市東部土地改良区、たかつき環境市民会議

クロスパル高槻ホームページ



ナガエツルノゲイトウ バスターズとは？

高槻市立自然博物館 (あくあびあ芥川) の部活プロジェクトの一つで、2018年に結成し、ナガエツルノゲイトウの駆除を続けています。

ナガエツルノゲイトウとは？

■ 原産地と侵入状況

南米原産の水草です。ブラジル南部、パラグアイ、アルゼンチンのパラナ川流域が生育地と考えられています。現在までにヨーロッパ、北中南米、アジア、オセアニアの世界30ヶ国以上で侵入が確認されています。日本では1989年に尼崎市の水田ではじめて確認され、現在では東北以南の31都府県で侵入が報告されています。アクアリウムなどの観賞用として輸入されたものが、野外に植えられたり、捨てられたりして増えたと考えられています。

■ 名前の由来

花に「長」い「柄」があり、「蔓」のように長く伸びる、「野」の「鶏頭」の仲間、なので、長柄蔓野鶏頭という名前です。

■ 生育場所

水路、河川、ため池、水田、畦畔（あぜ）などで生育します。乾燥にも強く、道端や畑、芝生、牧草地などでも生育できます。耐塩性もあり、海辺の砂浜にも生育できます。特に日当りの良い浅い水辺では大群落となります。

■ 問題点

- ・水路や河川で大発生すると水路をふさぎ、取水・排水の障害になります。特に高槻市南部のような低地ではポンプを使って雨水を排水しており、ポンプの取水口につまって排水ができなくなる恐れがあります。
- ・水田では収量が減るだけでなく、稲にからみついたり、台風で倒れた稲に覆いかぶさったりしてコンバインが使えなくなり、手でナガエツルノゲイトウを避けながら刈り取る必要が出てきます。千葉県では収穫を断念した水田も出ています。
- ・在来植物の生育の場を奪ったり、水中の環境を変えたり、日本の自然環境にも大きな影響を与えます。

■ 私たちにできることは？

見つけたら高槻市農林緑政課へ連絡ください。茎や葉の欠片からでも再生しますので、駆除にはコツが要ります。外来生物法の「特定外来生物」に指定されているので、移動や保管が禁止されています。触らずに通報してください。

高槻市農林緑政課
072-674-7402



お問い合わせフォーム



水路への侵入状況（千葉県）



水田への侵入状況



茎から再生



根の欠片から再生



花に柄がある